

ビワ生育情報

千葉県
平成30年11月号

平成30年10月の気象

平成30年10月の半旬別の気象を表1に記した。平均気温は、第4半旬を除く5半旬で平年並みか高かった。月平均気温は18.9℃で、平年より1.0℃、前年より1.2℃高かった。

降水量は、第6半旬を除く5半旬で平年を下回った。月合計は123mmで、平年の49%、前年の23%であった。

日照時間は、第3及び第4半旬を除く4半旬で平年を上回った。月合計は151時間で平年の110%、前年の153%であった。

表1 平成30年10月の気象(暖地園芸研究所)

| 半旬 | 平均気温(℃) | | | 降水量(mm) | | | 日照時間(hr) | | |
|------|---------|------|------|---------|-----|-----|----------|-----|----|
| | 本年 | 平年 | 前年 | 本年 | 平年 | 前年 | 本年 | 平年 | 前年 |
| 1 | 21.0 | 20.5 | 19.8 | 28 | 41 | 14 | 22 | 20 | 12 |
| 2 | 22.5 | 18.8 | 19.7 | 1 | 77 | 102 | 37 | 20 | 28 |
| 3 | 18.6 | 18.6 | 19.5 | 21 | 31 | 38 | 5 | 22 | 19 |
| 4 | 17.5 | 17.6 | 14.5 | 2 | 36 | 71 | 15 | 23 | 6 |
| 5 | 16.5 | 16.4 | 17.6 | 5 | 28 | 183 | 35 | 23 | 6 |
| 6 | 17.8 | 15.9 | 15.4 | 68 | 38 | 119 | 38 | 29 | 29 |
| 平均/計 | 18.9 | 17.9 | 17.7 | 123 | 250 | 525 | 151 | 137 | 99 |

12月の作業 (花房の発育は次ページ)

気温が低下すると、ビワの枝葉や根の伸長はほとんど停止するが、開花は続き、幼果は少しずつ肥大する。台風の影響を受けた園では樹の管理を行う。12月は寒害防止の準備を行い、来春に向けて、苗木の植え付け準備にとりかかる。

台風による被害を受けた樹の管理

11月1日現在、5個の台風が日本列島に上陸した。本県のビワ産地ではこれまでに樹体及び施設への被害が報告されている。倒伏した樹は起こし、損傷の程度に応じて枝を切り詰める。起こせない場合は、管理しやすいように枝を整理する。根が地面に露出しているところは、覆土をして根の回復を図る。このときバーク堆肥と一緒に混ぜると、細根の再生が促され樹の回復が早い。白紋羽病の恐れのあるところは農作物病害虫雑草防除指針に従って防除する。また、樹勢が低下した樹は花房数が少なくなるように摘除し、樹勢回復に努める。

防寒の準備

開花期は平年よりやや早いと予想されるため、寒害には充分気を付ける。毎年1～2月に寒波が襲来しているので、年内から防寒の準備を始める。

幼木の防寒法としては、こも掛けあるいは枝を結束する方法があるので、あらかじめ資材を用意しておく。成木園では園内を加温する方法があるので、火点設置場所の整備、ヒーター及び燃料の手配をしておく。また、防霜ファンの設置によって、放射冷却現象を緩和させることも有効である。

植え付け（定植）と植え穴の準備

ビワの根の伸長は3月上旬から始まるので、苗の植え付けの適期は2月中下旬頃になる。植え穴の準備は年内に済ませておく。改植の場合には、白紋羽病の発病跡地は極力避ける。やむを得ず、発病跡地へ植え付ける場合は、農作物病害虫雑草防除指針に従って防除してから行う。また、前作の根が残ると白紋羽病の発生源になるので、根を取り除くことも重要である。

新植の場合、苗の植え付け距離は3～3.5mとし、10a当たり80～110本を植え付ける。樹冠の広がりに合わせて間伐を行い、最終的な栽植距離は6～7mにして、10a当たり20～27本の永久樹を残すようにする。

樹及び花房の発育

着花房率は表2に示した。本年の着花房率を品種別にみると、「楠」が96.2%、「大房」が97.6%、「田中」が90.3%でそれぞれ平年及び前年より高い。また、3品種の平均は97.7%で、過去45年間で4番目に高い。花房の大きさは全般的に平年並みで、1つの花房に着生する花数も平年並みである。

本年は7、8及び10月に十分な日照があったため、樹の発育が良い。蕾の出現は平年より早く、揃いは良く、その後の花房の発育はやや早い。11月1日時点で、「楠」及び「田中」は開花が始まっているが、「大房」は始まっていない。今後の気象にも影響を受けるが、現時点では開花の進みは平年より早いと思われる。開花の早い園では、寒害の影響を受けることが予想されるので注意する。

アブラムシの発生は平年より少なく、カミキリムシ類の被害穴は少ない。なお、来年のカメムシ発生量は中発生と見込まれている。詳しくは、農林総合研究センター病害虫防除課の発生予察情報を参考にする (<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/index.html>)。

表2 着花房率(暖地園芸研究所)

| 品 種 | 本年 (%) | 平年 (%) | 前年 (%) |
|-----|-----------|-----------|-----------|
| 楠 | 96.2 | 82.6 | 83.9 |
| 大 房 | 97.6 | 78.0 | 70.3 |
| 田 中 | 90.3 | 76.1 | 64.1 |

平年：1988年～2017年の30年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>